

北海道士幌高等学校の行動計画（アクションプラン） Part 2

北海道の農業高校の行動計画		学校において平成24年度に重点化する項目及び具体的方策			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する項目	達成目標	具体的方策	評価
I 持続可能な循環型社会の実現に向けて農業教育と環境教育を推進し、地域の先進的なエコロジカルアグリハイスクールを目指します。	①環境保全型農業を推進する農業教育を実践します。	(1)作物・草花栽培等において、堆きゆう肥の有効利用を図り、減化学肥料に努めます。 (2)畜舎内外の環境を整備するとともに、適切なふん尿処理に努めます。 (3)町のゴミ資源化事業に協力するとともに農業からゴミを出さない経営に努めます。	B B A	(1)作物・園芸・畜産の各部門の連携を強化する。 (2)畜舎内外の環境及び家畜のふん尿処理に関するチェックシートを作成する。 (3)ゴミの削減と資源化における独自目標の設定と達成度チェック(L A S - E会議の実施)を行う	4 3 3
		(1)地域の自然環境を活かした「農村ライフ」に係わる学習を推進します。 (2)地域の自然環境に配慮した食品の製造に係わる学習を推進します。	B B	(1)関係教科・科目の環境保全に関連する指導事項等を年間学習計画(学習シラバス)の重点等に位置づけ指導する。 (2)製造残渣を減らすとともに環境に配慮した資材を用いるなど、環境への配慮を指導する。	4 4
	③農業の担い手を育成します。	(1)地域の関係機関と連携を図るとともに講演会や視察交流会等を実施します。 (2)原料生産から流通・販売までのフードシステムについて理解させるとともに、高度な技術力を持った農業の担い手と理解者を育成します。	B B	(1)農業大学校や普及センター、地元農業者との連携を密にする。 (2)プロジェクト学習や食品に関わる専門教科学習を通して課題を見つけ、より高度な知識・技術の修得を目指す。	3 3
		④食の安全・安心教育を徹底します。	(1)生産者の立場からの「食育・食農」教育を推進します。 (2)安全・安心な加工品の製造を目指し、各種販売実習や日頃の加工実習での、衛生管理の理解と徹底を図ります。	A A	(1)関係教科・科目において、座学と実験・実習のバランスを図る。 (2)食品衛生法に基づいた衛生管理を改善させるとともに加工品の製造履歴等の記録定着を図る。 (3)生徒への衛生教育、実習時の衛生チェック等を徹底する。
III 地域貢献、地域連携を推進し、地域農業の発展に努めます。	⑤産地地消を推進するとともに、地域の伝承文化の継承に努めます。	(1)地域農産物の高品質化ならびに高収量化を目指した栽培方法を確立します。 (2)地域の食材を活用し、特産品となれるような新商品を開発します。	B B	(1)農業試験場や普及センター等との連携を図るとともに、栽培記録と栽培状況等の分析に関する研究を充実させる。 (2)地域食材を活用した加工品の研究を行うとともに、商品化に向けてシステムの構築を図る。	3 3
		⑥産業界や大学等との連携を強化します。	(1)プロジェクト学習において、大学等と連携した高度な知識・技術の習得に努めます。 (2)産学官が連携した地域に求められる知識・技術が習得できる研究活動を推進します。	B B	(1)大学と連携して、地域貢献できる共同研究を充実する。 (2)地域の生産物を生かした加工品製造の研究と連携強化を図る。
	IV 農業教育の普及、奨励、支援を行います。	⑦すべての児童・生徒に対して、農業教育の普及活動を実践します。	(1)農業クラブ活動の活性化を図るとともに、クラブ員の資質向上に努めます。 (2)農事視察研修や産業界実習等キャリア教育の充実を図り産業界として必要な実践力を育成します。	A A	(1)農業クラブ三大行事を通してクラブ員一人ひとりが主体的に活動できるような指導を工夫する。 (2)産業界現場での実習を通し、農業各分野の技術や実践的な能力と態度を育成する。
⑧すべての人に対して、農業に対する関心と理解が深まる活動を行います。			(1)道内外の視察・研修を積極的に受け入れ、農場・施設開放を通して、言語活動を充実するとともに「農業理解」を推進します。 (2)地域のイベントへの積極的参加と交流を充実するとともに学校の取り組みを紹介します。	A A	(1)農事視察・研修の充実と外部への広報に努める。 (2)ASPO販売会や地域イベントの参加、学校の情報発信など生徒自らが企画し活動内容を紹介する取組を充実する。
V 東日本大震災からの農業の復興を支援し、自然災害による被害の軽減に努める人材を育成します。	⑨自然災害による被害の軽減や自然エネルギーの利用についての学習を推進します。 ⑩東日本大震災で被災した農業高校・生徒を支援します。	(1)実験実習施設・設備の更新を計画的に検討し、自然エネルギーを活用した施設等に更新します。	B	(1)温室や貯蔵施設など自然エネルギーを活用した施設設備の研究と更新計画を作成する。	2
		(1)被災地の復興状況を理解するとともに、関係高校・生徒との交流を行います。	B	(1)農業クラブが中心となり被災地の情報収集を行い、具体的な支援策を中・長期的に策定する。	1